

リレートーク 280

緩やかでおおらかに 過ごせる空間を



中崎とし江さん
NPO法人布紗理事長。障がい者や高齢者一人一人がゆっくりゆったりと過ごせる居場所作りを支援するため、同法人を立ち上げた。

市民のひろば

Q 「いつだれkitchen (キッチン)」を始めた経緯などを教えてください。

近所や知り合いの家庭菜園で一度にたくさん収穫された旬の野菜などが、誰にも食べてもらえずに廃棄されてしまうことを聞き、以前からもったいないと感じていました。余って廃棄されてしまう食材を使って、料理を提供する場を作り、その場を多様な人が緩やかでおおらかに過ごせる空間にしたいと思い、さまざまな方の後押しをいただいて、毎週木曜日のお昼に家庭料理を提供する「いつだれキッチン(以下いつだれ)」を開所しました。

Q いつだれの名前の由来や特徴について教えてください。

「いつでも」「だれでも」どうぞ



工夫を凝らした料理を盛り付けるいつだれキッチンのスタッフ

という思いを込めました。キッチンを名前に加えたのは、私が作りたい空間は、きちんとして決めて決まり事がある食堂ではなく、家庭の中でみんなが自然と集まるお勝手のような暖かい雰囲気にしたかったからです。

私はダウン症の弟を通して、障がい者や高齢者が本人たちの意に介さず、社会から線引きされてしまうことに、長年くすぶった思いを抱えていました。そのため、いつだれは障がいの有無も年齢も関係なく、食材を持参する人、調理する人、食べる人みんなが食でつながる場にすることでなく、多くの方に利用してもらえるよう、食事は上限も下限も定めない「投げ銭制」にしています。いつだれを支えてくれるスタッフ



中崎さんたちが作った料理やみんなで話せる場を楽しみに集まる皆さん

はボランティアで、日当も交通費も出ませんが、毎週手伝いに来てくれます。頂いた食材を見て、どのように調理するか、どの食材と組み合わせるとおいしいかなどをスタッフと相談しながら作っています。

Q 今後の目標はありますか。

本来出会うこともなかったような方がいつだれで話し、打ち解け合っていく姿は、いつだれが起す化学変化だと思っています。また、いつだれ自体もより良い形に変化していくのではないかと思うので、今後も、旬の食材を使った料理を提供できる喜びを感じながら、誰もがほっとできる空間と大鍋いっぱい料理を提供していけるよう、緩く長く活動を続けていきたいです。



絵はがきの種類④ (記念・行事・人物)

最初に記念絵はがきが登場したのは、日露戦争の勝利を記念して作成されたときでした。

地方では、博覧会や各種行事などの開催時にPR用の絵はがきが発売されました。明治四十四(一九一一年)に



平町で開催された「国産奨励勸業大博覧会」[大正14(1925)年 八巻写真部発行]

明治時代に誕生した絵はがきは、新聞と並んで、重要な情報伝達媒体として使用されてきました。絵はがきに残る当時の風景などを通して、いわきの歴史や文化をひもときます。

平町で開催された「福島県第四回農産物品評会」や、大正十四(一九二五年)の「国産奨励勸業大博覧会」、昭和七(一九三二年)の「昭和産業博覧会」などのイベントにおいても、PR絵はがきとして発行されています。

他にも、絵はがきは、市町村の行事や学校の全景・運動会・遠足の記念、建物・鉄道の竣工記念など、それぞれの行事を祝う場面が表現されました。そのうち、県立磐城高等女学校(現在の磐城桜が丘高等学校)は大正時代末期から昭和十年代まで毎年、組み写真形式で、学校行事の絵はがきを発行していました。

また、現在のプロマイドの始まりとされ、江戸時代の役者絵などに代表される浮世絵は、明治時代になると歌舞伎役者や花柳界の芸者のポスターレットへと受け継がれました。政治家や経済人、文人などが対象となった人物絵はがきはここから分派したのですが、いわき地方においては、あまり多く残されていません。

(いわき地域学會 小宅幸一)

こんにちは市長室から 60



中山間地域の振興

いわき市長 清水敏男

私は市長就任後、中山間地域の振興に特に意を用いて、積極的に施策展開をしてまいりました。まず、集落の維持・活性化を目的に、平成27年に中山間全地区に35名の集落支援員を配置し、現在も市と連携して活動しています。また、地域課題を解決すべく、国の地域おこし協力隊制度を活用し、遠野地区では遠野和紙の継承に3人、川前地区ではいわきの里鬼ヶ城への誘客に1人、田人地区では地域

への誘客に3人、三和地区では農業の6次産業化支援に1人の計8人の隊員が活躍しています。

さらに、学校の統合も進み、平成26年に田人地区、その翌年に三和地区において小・中学校を統合し、三和地区では新たな校舎を建設中であり、来春には供用開始となります。

交通の確保に向けては、昨年からの住民ボランティア輸送が田人・三和地区で始まり、地域支え合いの下、運行されています。

支所については、小川支所の移転新築が具体化するともに、川前支所については移転も含め検討を進めています。

そして、長らく区長会などから要望があった光ファイバー回線整備は、令和4年度からサービス提供ができるめどが付きましました。